

家畜衛生情報

つばき



季刊 第135号
令和3年 春号



ガザニア

目次

- P.2…新年度挨拶
県内の養豚農場で豚流行性下痢
(PED)の発生が確認されました
- P.3…家畜伝染病発生状況(HPAI、CSF)
- P.4…家畜伝染病発生状況(ASF、口蹄疫)
令和2年度病性鑑定状況
- P.5…早めの暑熱対策で夏に備えましょう
令和2年 繁殖集計より
- P.6…令和3年度五島家畜保健衛生所体制図
編集後記

長崎県五島家畜保健衛生所
(五島振興局農林水産部家畜衛生課)

〒853-0031

長崎県五島市吉久木町725-3

TEL (0959)72-3379

FAX (0959)72-1023

E-mail s12230@pref.nagasaki.lg.jp



新 年 度 挨拶

令和3年度の始まりにあたりご挨拶申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃から家畜衛生の推進や畜産振興にご理解ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年から引き続き新型コロナウイルスによるヒトの肺炎の流行により、人の移動の制限、各種イベントの中止、物流の停滞など経済活動が深刻な影響を受けています。畜産につきましては、宴会や外食の自粛による高級食材の不振の一方で、家庭での巣籠り需要に伴うネットの取り寄せ食材の急増など取り巻く環境が激変し将来の見通しが付きづらい状況となっています。

五島管内においては、肉用牛の増頭対策により目標としていました肉用繁殖牛5,000頭飼養が達成されました。非常に喜ばしく、関係された皆様のご努力に敬意を表する次第です。また、3月に開催された家畜市場では去勢子牛の取引価格が90万円に迫るなど、高値が続いています。

家畜衛生面に目を向けますと、全国的に高病原性鳥インフルエンザが流行し、令和2年秋からのシーズンには52事例987万羽の発生が認められ、過去最大の規模となっています。冬鳥の渡りは5月の連休ごろまで続きますので、防鳥ネットの整備等飼養衛生管理基準の徹底を継続してください。豚においては、令和2年度に豚熱が近畿地方などで5事例確認され、また、野生イノシシにおける感染確認地域も中国地方まで拡大してきています。県内では、豚流行性下痢の発生が確認されていますので、病原体の侵入防止対策に万全を期すようお願いします。そして、口蹄疫も、依然として近隣国で発生しており、今後も予断を許さない状況です。

農家及び関係者の皆様におかれましては、疾病発生防止に引き続き努めていただきますようお願いいたします。特に、今年度は全ての畜種の畜産農家が飼養衛生管理マニュアルを策定し、飼養衛生管理を徹底していくこととなっておりますので疾病の発生防止に一丸となって努力していきましょう。

家畜保健衛生所は、現場に出向き、現場の課題を見出し、解決策を関係機関と連携しながら実行し、畜産農家の所得の向上及び安全・安心な畜産物の供給に貢献したいと考えておりますので、引き続き皆様方のご協力をお願い申し上げます。

五島家畜保健衛生所 所長 濱口 芳浩

県内で養豚農場で豚流行性下痢(PED)の発生が確認されました

県内の養豚農場において、平成29年以来4年ぶりに豚流行性下痢(PED)の発生が確認されました。

PEDは、日齢に関係なく水様性下痢等の症状を示し、特に哺乳豚では死亡率の高いウイルス性疾病です。

発生予防対策として、**①農場への侵入防止対策、②衛生的な飼養環境の維持、③ワクチン接種の継続・徹底**が挙げられます。

つきましては、上記3対策を念頭に、飼養衛生管理を遵守して防疫対策の徹底をお願いします。



PED発症哺乳豚



未消化固形物を含む水様性下痢

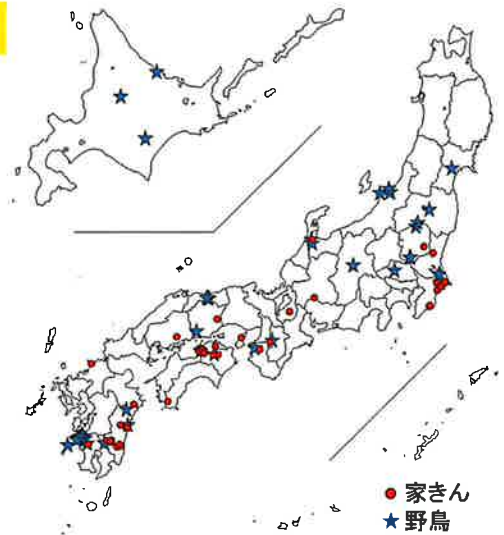
家畜伝染病発生状況

○高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)

今シーズンは令和2年11月に香川県で発生して以降、養鶏農場で18県52事例約987万羽で発生が確認され(令和3年3月29日現在)、これまでにない発生状況となっています。

また、野鳥(糞便も含む)(18道県58事例)および環境試料(水)(4県19事例)からも本ウイルスが検出されています。

5月までは発生リスクが高い状態ですので、引き続き、飼養衛生管理基準の遵守徹底をお願いします。



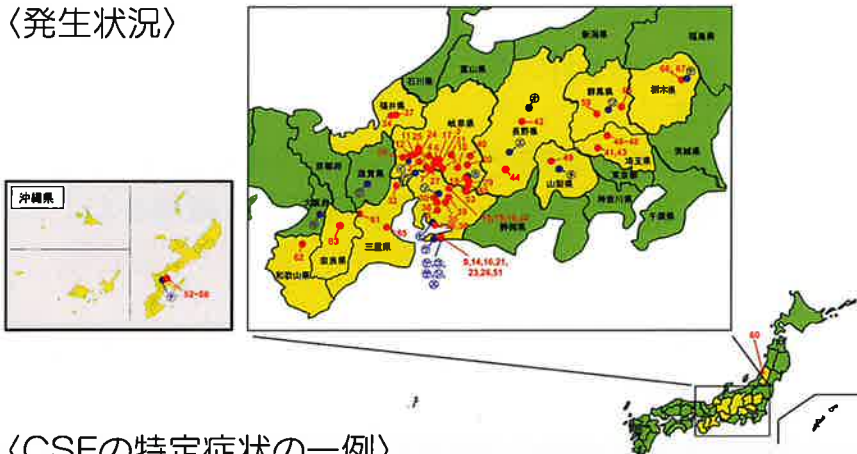
出典:農林水産省HP
(令和3年3月29日現在)

○豚熱(CSF)

令和2年12月以降、養豚農場で豚熱(CSF)の患畜が6県8例確認されました。平成30年9月に岐阜県で患畜が確認されて以降、67事例の発生が確認されています(令和3年4月17日現在)。また、野生イノシシについては、24都府県で陽性事例が確認されており、ワクチン接種推奨地域については30都府県におよんでいます。

飼養衛生管理基準の遵守を再確認していただくとともに、飼養豚の健康観察と特定症状を認めた場合の早期通報をお願いします。

〈発生状況〉



〈CSFの特定症状の一例〉



耳翼の紫斑



元気がない



結膜炎

出典:農林水産省HP
(令和3年4月17日現在)

○アフリカ豚熱(ASF)および口蹄疫

ASFは日本での発生はないものの、今年に入り、新たにマレーシアでの発生が報告されるなど、近隣諸国での発生が続いています。さらに隣国の韓国では野生イノシシから、台湾では海岸に漂着した豚の死体からASFウイルスが検出されるなど、我が国への病原体の侵入リスクは依然として高いままです。

口蹄疫は平成30年以降、近隣諸国での発生が相次いでおり、平成31年1月には韓国、令和2年5月には中国で発生が確認されています。加えて本ウイルスは偶蹄類動物に対する伝播力が非常に強いことから、国内の防疫体制強化が必須となります。

両疾病が国内で発生しないためにも、畜産関係者の皆様には引き続き飼養衛生管理基準の徹底遵守および異常畜の早期発見に努めていただきますようお願いします。

衛生管理を徹底しましょう！



関係者以外の農場
への立入を禁止



農場(畜舎)に出入りする
際には、消毒を実施



飼料に生肉を含む又は含む
可能性がある場合は、
十分に加熱処理

出典：農林水産省HP

令和2年度 病性鑑定状況

令和2年度の病性鑑定は228件（牛：195件、豚：9件、鶏：23件、馬：1件）でした。主な診断名は下表のとおりです。

牛の病性鑑定では、肺炎など呼吸器疾患と診断された事例が16件あり、うち8か月齢以下は10件でした。なお、気温が低下する10月以降で7件確認されています。子牛は寒さに弱く、**敷料を厚めに敷く、すきま風を防ぐ、ヒーターの設置、カウジャケットの着用**等の防寒対策が重要です。

また、飼養している家畜に鼻汁や咳等がみられた場合は、すぐに獣医師へ相談してください。早期発見・早期治療が肝要です。

畜種	主な診断名・検査内容（疑い事例含む）
牛	牛伝染性リンパ腫、破傷風、牛RSウイルス病、牛パストツレラ（マンヘミア）症、ヒストフィルス・ソムニ感染症、誤嚥性肺炎、創傷性心嚢炎、腹膜炎、第四胃潰瘍・穿孔、急性鼓張症、牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症、牛大腸菌症、臍帯炎、膀胱破裂、再生不良性貧血、股関節脱臼、流行熱検査、牛伝染性リンパ腫抗体検査、ビタミン検査、代謝プロファイルテスト、水質検査
豚	豚レンサ球菌症、ステージ別検査、オーエスキー病ウイルス抗体検査、PRRSウイルス抗体検査
鶏	高病原性鳥インフルエンザウイルスモニタリング検査、ニューカッスル病ウイルス抗体検査
馬	クッシング症候群

早めの暑熱対策で夏に備えましょう

近年、夏になると連日、真夏日や猛暑日となっており、これまで以上に家畜への暑熱ストレスが増大しています。

暑熱ストレスは、増体量や肉質の低下、受胎率の低下、熱中症による死亡頭羽数の増加といった生産性の低下を引き起こします。

暑熱対策は、畜舎環境の改善と同時に、栄養管理面の対策も重要です。下記を参考に、暑い夏を迎える前に対策をしましょう！

～暑熱対策～

○畜舎環境改善(畜舎温度を下げる)

- ・ 避陰樹や遮光ネット等の設置
- ・ 屋根等へ断熱材の設置や塗装
- ・ 屋根への散水
- ・ 換気扇や扇風機による換気・送風

○飼養管理の工夫

- ・ 冷たい飲用水の給与
- ・ 畜体へ直接送風・散水
- ・ 密飼いを避ける
- ・ 涼しい時間帯の給餌



<畜舎屋根への石灰散布>



<クーリングパッドの設置>



<換気扇による送風>

参考：暑熱対策パンフレット(農林水産省 生産局畜産部)

令和2年 繁殖集計より(凍結精液利用状況)

令和2年における管内の凍結精液利用回数は、県有種雄牛4,472回、県外3,027回でした。種雄牛別に見ると、トップ3はすべて県有種雄牛でした。特に、枝肉共励会等で優秀な成績を収めている「勝乃幸」は、利用回数が前年と比較し約2.6倍と大きく増加していました。

今後とも、県有種雄牛を活用し「長崎和牛」の発展や後継牛の生産促進へのご協力をお願いします。

なお、長崎県基幹種雄牛の枝肉成績は長崎県肉用牛改良センターのホームページからもご覧いただけますのでご活用下さい。



管内における令和2年凍結精液利用状況(トップ5)

